

結果の概要

刑務所・拘置所等

1 被收容者

(1) 収容状況

最近10年間の全国の刑務所及び拘置所の1日平均収容人員の推移は、第1表のとおりである。平成5年に増加に転じて以降、年々増加している状況である。平成19年は同18年に比べ349人(0.4%)増加した80,684人(男75,490人、女5,194人)となっている。

第1表 1日平均収容人員の推移

区分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
総数	51,986	53,947	58,747	63,415	67,354	71,889	75,289	77,932	80,335	80,684
男	49,246	51,053	55,563	59,927	63,614	67,768	70,887	73,238	75,331	75,490
女	2,740	2,894	3,184	3,488	3,740	4,121	4,402	4,694	5,003	5,194
対前年比	3.8	3.8	8.9	7.9	6.2	6.7	4.7	3.5	3.1	0.4

(注) 刑務所・拘置所等の統計表(以下第31表まで同じ。)の2表(07-00-02)参照

平成19年における1日平均収容人員の内訳は、第2表のとおりである。被收容者の種別で見ると、受刑者が70,625人(87.5%)、次いで、被告人が8,860人(11.0%)、労役場留置者が1,013人(1.3%)の順となっている。

第2表 1日平均収容人員の内訳

区分	総数	受刑者	死刑確定者	被告人	被疑者	労役場留置者	その他
人員	80,684	70,625	102	8,860	77	1,013	7
(構成比)	(100.0)	(87.5)	(0.1)	(11.0)	(0.1)	(1.3)	(0.0)
対前年比	0.4	1.9	18.6	-10.6	-7.2	6.9	-12.5

(注) 1表(07-00-01)及び2表(07-00-02)参照

(2) 年末収容人員

最近10年間の年末における収容人員の推移は、第3表のとおりである。収容率(年末における収容定員(病舎の定員を除く。)に対する年末収容人員の比率)は、平成13年から同18年まで6年連続して100%を超過していたが、刑務所の新設による大幅な収容定員の増員を行ったことから、7年ぶりに年末収容人員が収容定員を下回ることとなった。

第3表 年末収容人員の推移

区分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
年末収容人員	52,713	56,133	61,242	65,508	69,502	73,734	76,413	79,055	81,255	79,809
収容定員	63,625	64,164	64,194	64,727	65,264	69,694	72,182	76,043	79,375	85,214
収容率	82.8	87.5	95.4	101.2	106.5	105.8	105.9	104.0	102.4	93.7

(注) 3表(07-00-03)参照

(3) 入・出所人員

最近10年間の入・出所人員の推移は、第4表のとおりである。刑務所及び拘置所の入所人員は、平成16年以降減少し、平成19年は同18年に比べ5,313人(8.5%)減少した57,491人(男53,167人、女4,324人)となっている。出所人員も、平成17年以降減少し、平成19年は同18年に比べ1,667人(2.8%)減少した58,937人(男54,696人、女4,241人)となっている。

第4表 入・出所人員の推移

区 分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
入 所 人 員 (指 数)	50,893 (100)	53,593 (105)	58,201 (114)	59,827 (118)	63,485 (125)	67,979 (134)	67,612 (133)	65,857 (129)	62,804 (123)	57,491 (113)
出 所 人 員 (指 数)	49,077 (100)	50,173 (102)	53,092 (108)	55,561 (113)	59,489 (121)	63,748 (130)	64,933 (132)	63,215 (129)	60,604 (124)	58,937 (120)

(注) 14表 (07-00-14) 参照

(4) 外国人被収容者

最近10年間の年末収容人員のうち、外国人被収容者人員の推移は、第5表のとおりである。平成19年の年末における外国人被収容者人員は、同18年に比べ260人(4.2%)減少した5,919人となり、外国人受刑者人員は、77人(1.5%)減少した5,139人となっている。

第5表 年末収容人員のうち外国人被収容者人員の推移

区 分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
年末収容人員(A)	52,713	56,133	61,242	65,508	69,502	73,734	76,413	79,055	81,255	79,809
うち、外国人被 収容者人員(B)	3,433	4,053	4,385	4,801	5,092	5,668	6,020	6,183	6,179	5,919
うち、外国人 受刑者人員	2,359	2,903	3,237	3,535	3,892	4,326	4,832	5,177	5,216	5,139
年末収容人員に 占める比率 [(B)/(A)]	6.5	7.2	7.2	7.3	7.3	7.7	7.9	7.8	7.6	7.4

(注) 3表 (07-00-03) 及び8表 (07-00-08) 参照

平成19年の年末在所外国人被収容者の内訳は、第6表のとおりである。

このうち、来日外国人は4,440人であり、外国人被収容者年末収容人員に占める割合は75.0%となっている。

第6表 年末在所外国人被収容者の内訳

区 分	総 数	受刑者	未決拘禁者	その他
外 国 人 被 収 容 者 年 末 収 容 人 員	5,919	5,139	669	111
う ち、 来 日 外 国 人	4,440	3,880	467	93

(注) 8表 (07-00-08) 及び9表 (07-00-09) 参照

平成19年の年末在所来日外国人被収容者の国籍は、第7表のとおりである。国籍別の人員総数は、中国が1,768人(39.8%)と最も多く、次いで、ブラジルが550人(12.4%)、イランが473人(10.7%)、韓国・朝鮮が315人(7.1%)の順となっている。

第7表 年末在所来日外国人被収容者の国籍

区 分	総数	中国	ブラジル	イラン	韓国・朝鮮	ベトナム	フィリ ピン	ペルー	コロン ビア	タイ	ナイジェ リア	パキス タン	その他
人 員 総 数	4,440	1,768	550	473	315	193	145	122	112	84	53	47	578
男	3,975	1,578	538	472	243	162	99	117	99	48	53	47	519
女	465	190	12	1	72	31	46	5	13	36	-	-	59
構 成 比 総 数	100.0	39.8	12.4	10.7	7.1	4.3	3.3	2.7	2.5	1.9	1.2	1.1	13.0
男	100.0	39.7	13.5	11.9	6.1	4.1	2.5	2.9	2.5	1.2	1.3	1.2	13.1
女	100.0	40.9	2.6	0.2	15.5	6.7	9.9	1.1	2.8	7.7	-	-	12.7

(注) 9表 (07-00-09) 参照

2 新受刑者

(1) 新受刑者の収容状況

最近10年間の新受刑者人員の推移は、第8表のとおりである。新受刑者人員の総数は平成4年から同18年まで15年連続して増加していたが、平成19年は同18年に比べ2,582人（7.8%）減少した30,450人（男28,272人、女2,178人）となっている。

第8表 新受刑者人員の推移

区分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
人総	23,101	24,496	27,498	28,469	30,277	31,355	32,090	32,789	33,032	30,450
男	21,902	23,289	26,030	26,907	28,572	29,488	30,089	30,607	30,699	28,272
女	1,199	1,207	1,468	1,562	1,705	1,867	2,001	2,182	2,333	2,178
指総	100	106	119	123	131	136	139	142	143	132
男	100	106	119	123	130	135	137	140	140	129
女	100	101	122	130	142	156	167	182	195	182

(注) 18表 (07-00-18) 参照

(2) 新受刑者の年齢

平成19年における新受刑者の年齢別人員は、第9表のとおりである。これを総数の構成比で見ると、35～39歳が15.0%（4,565人）と最も高く、次いで、30～34歳が14.2%（4,313人）、40～44歳が12.0%（3,643人）の順となっている。

第9表 新受刑者の年齢別人員

区分	総数	20歳未満	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45～49歳	50～54歳	55～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上
人総	30,450	42	2,191	3,595	4,313	4,565	3,643	2,950	2,487	2,937	1,843	1,091	793
男	28,272	41	2,069	3,338	4,010	4,186	3,367	2,739	2,345	2,740	1,725	998	714
女	2,178	1	122	257	303	379	276	211	142	197	118	93	79
構成比	100.0	0.1	7.2	11.8	14.2	15.0	12.0	9.7	8.2	9.6	6.1	3.6	2.6
男	100.0	0.1	7.3	11.8	14.2	14.8	11.9	9.7	8.3	9.7	6.1	3.5	2.5
女	100.0	0.0	5.6	11.8	13.9	17.4	12.7	9.7	6.5	9.0	5.4	4.3	3.6
対前年比	-7.8	-19.2	-20.6	-8.4	-11.5	-4.5	-6.1	-3.0	-9.5	-9.8	0.4	0.5	-0.4
男	-7.9	-19.6	-20.7	-8.3	-10.3	-6.1	-6.3	-3.6	-8.7	-10.2	0.8	0.0	1.0
女	-6.6	0.0	-19.2	-9.2	-25.0	17.7	-3.8	5.0	-20.7	-3.9	-4.1	5.7	-11.2

(注) 22表 (07-00-22) 参照

また、最近10年間の新受刑者のうち60歳以上人員の推移は、第10表のとおりであり、年々増加している。

第10表 新受刑者のうち60歳以上人員の推移

区分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
人総	1,677	1,850	2,130	2,337	2,604	2,929	3,129	3,460	3,717	3,727
男	1,584	1,739	2,009	2,232	2,437	2,747	2,920	3,229	3,417	3,437
女	93	111	121	105	167	182	209	231	300	290
構成比	7.3	7.6	7.7	8.2	8.6	9.3	9.8	10.6	11.3	12.2
男	7.2	7.5	7.7	8.3	8.5	9.3	9.7	10.5	11.1	12.2
女	7.8	9.2	8.2	6.7	9.8	9.7	10.4	10.6	12.9	13.3

(注) 22表 (07-00-22) 参照

(3) 新受刑者の罪名

平成19年における新受刑者の罪名別人員は、第11表のとおりである。これを、罪名別の総数の構成比で見ると、窃盗が31.6% (9,636人) と最も高く、次いで、覚せい剤取締法違反が20.1% (6,125人)、詐欺が7.6% (2,304人)、傷害が6.2% (1,879人)、道路交通法違反が5.9% (1,808人)、強盗が3.9% (1,184人) の順となっている。

第11表 新受刑者の罪名別人員

区 分	総 数	構成比	男	構成比	女	構成比
総 数	30,450	100.0	28,272	100.0	2,178	100.0
刑 法 犯	20,727	68.1	19,478	68.9	1,249	57.3
放 火	253	0.8	201	0.7	52	2.4
文書偽造・有価証券偽造・支払用カード 電磁的記録関係・印章偽造	293	1.0	265	0.9	28	1.3
強 制 わ い せ つ ・ 強 姦	874	2.9	872	3.1	2	0.1
賭 博 ・ 富 く じ	22	0.1	22	0.1	-	-
殺 人	507	1.7	432	1.5	75	3.4
傷 害	1,879	6.2	1,835	6.5	44	2.0
危 険 運 転 致 死 傷	120	0.4	114	0.4	6	0.3
業 務 上 過 失 致 死 傷	717	2.4	684	2.4	33	1.5
窃 盗	9,636	31.6	8,907	31.5	729	33.5
強 盗	1,184	3.9	1,147	4.1	37	1.7
詐 欺	2,304	7.6	2,145	7.6	159	7.3
恐 喝	721	2.4	705	2.5	16	0.7
横 領 ・ 背 任	458	1.5	424	1.5	34	1.6
暴力行為等処罰に関する法律	284	0.9	283	1.0	1	0.0
そ の 他	1,475	4.8	1,442	5.1	33	1.5
特 別 法 犯	9,723	31.9	8,794	31.1	929	42.7
銃 砲 刀 剣 類 所 持 等 取 締 法	206	0.7	204	0.7	2	0.1
売 春 防 止 法	50	0.2	36	0.1	14	0.6
麻 薬 及 び 向 精 神 薬 取 締 法	107	0.4	100	0.4	7	0.3
覚 せ い 剤 取 締 法	6,125	20.1	5,385	19.0	740	34.0
道 路 交 通 法	1,808	5.9	1,752	6.2	56	2.6
出 入 国 管 理 及 び 難 民 認 定 法	252	0.8	175	0.6	77	3.5
そ の 他	1,175	3.9	1,142	4.0	33	1.5

(注) 1 「強制わいせつ・強姦」には、それぞれの致死傷を、「傷害」には、傷害致死及び暴行を、「業務上過失致死傷」には、重過失致死傷及び自動車運転過失致死傷を、「強盗」には、強盗致死傷及び強盗強姦・同致死を含む。

2 18表 (07-00-18) 参照

さらに、男女別に上位5位までの罪名で見ると、男は、窃盗、覚せい剤取締法違反、詐欺、傷害、道路交通法違反の順で、女は、覚せい剤取締法違反、窃盗、詐欺、出入国管理及び難民認定法違反、殺人の順となっており、平成18年と変わらない。女の場合、覚せい剤取締法違反及び窃盗の構成比がそれぞれ30%以上を占めているとともに、上位に殺人が挙げられている点が大きな特徴である。

なお、最近10年間の新受刑者のうち、覚せい剤取締法違反の人員の推移は、第12表のとおりであり、平成19年は、同18年より677人減少している。

第12表 新受刑者のうち覚せい剤取締法違反人員の推移

区 分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
人 員 数	5,959	6,000	7,375	7,280	7,062	6,774	6,165	6,960	6,802	6,125
男	5,380	5,428	6,679	6,555	6,349	6,065	5,456	6,193	6,018	5,385
女	579	572	696	725	713	709	709	767	784	740
構 成 比 数	25.8	24.5	26.8	25.6	23.3	21.6	19.2	21.2	20.6	20.1
男	24.6	23.3	25.7	24.4	22.2	20.6	18.1	20.2	19.6	19.0
女	48.3	47.4	47.4	46.4	41.8	38.0	35.4	35.2	33.6	34.0

(注) 1 構成比は新受刑者の人員に占める比率である。

2 18表 (07-00-18) 参照

(4) 新受刑者の刑名・刑期

平成19年における新受刑者の刑名別人員は、第13表のとおりである。

第13表 新受刑者の刑名別人員

区 分	総 数	懲 役	禁 錮	拘 留	死 刑
人 員 (構 成 比)	30,450 (100.0)	30,226 (99.3)	206 (0.7)	9 (0.0)	9 (0.0)

(注) 19表 (07-00-19) 参照

このうち、懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員は、第14表のとおりである。懲役受刑者の刑期別人員は、2年以下が10,884人(36.0%)と最も多く、次いで、3年以下が6,609人(21.9%)、1年以下が6,701人(22.2%)となっている。禁錮受刑者については、2年以下が113人(54.9%)と最も多い。

第14表 新受刑者のうち懲役及び禁錮受刑者の刑期別人員

区 分	総 数	1 年以下	2 年以下	3 年以下	5 年以下	5 年を超える	無 期
懲 役 人 員 (構 成 比)	30,226 (100.0)	6,701 (22.2)	10,884 (36.0)	6,609 (21.9)	3,979 (13.2)	1,964 (6.5)	89 (0.3)
禁 錮 人 員 (構 成 比)	206 (100.0)	43 (20.9)	113 (54.9)	39 (18.9)	11 (5.3)	- (-)	- (-)

(注) 19表 (07-00-19) 参照

(5) 新受刑者の入所度数

平成19年における新受刑者の入所度数別人員は、第15表のとおりである。

第15表 新受刑者の入所度数別人員

区 分	総数	初度	2 度	3 度	4 度	5 度	6 度以上
人 員 (構 成 比)	30,450 (100.0)	14,863 (48.8)	5,177 (17.0)	3,003 (9.9)	2,014 (6.6)	1,342 (4.4)	4,051 (13.3)
対 前 年 比	-7.8	-9.9	-4.2	-7.5	-1.4	-6.7	-7.9

(注) 23表 (07-00-23) 参照

次に、最近10年間の新受刑者のうち、初入者及び再入者人員の推移は、第16表のとおりである。初入者は、平成5年以降増加傾向を示していたが、平成16年から減少し始めた。また、平成18年から2年連続して再入者が初入者を上回っている。

第16表 新受刑者のうち初入者・再入者人員の推移

区 分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
総 数	23,101	24,496	27,498	28,469	30,277	31,355	32,090	32,789	33,032	30,450
初 入 者 (構 成 比)	10,443 (45.2)	11,113 (45.4)	13,371 (48.6)	14,294 (50.2)	15,402 (50.9)	16,261 (51.9)	16,591 (51.7)	16,573 (50.5)	16,504 (50.0)	14,863 (48.8)
再 入 者 (構 成 比)	12,658 (54.8)	13,383 (54.6)	14,127 (51.4)	14,175 (49.8)	14,875 (49.1)	15,094 (48.1)	15,499 (48.3)	16,216 (49.5)	16,528 (50.0)	15,587 (51.2)

(注) 23表 (07-00-23) 参照

(6) 新受刑者のうち初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴

平成19年の新受刑者のうち、初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員は、第17表のとおりである。保護処分歴を有する者は1,978人（13.3%）、刑の執行猶予歴を有する者は8,816人（59.3%）となっている。

第17表 初入受刑者の保護処分歴・刑の執行猶予歴別人員

区分	総数	保護処分歴					刑の執行猶予歴	
		あり	少年院送致	児童自立支援施設・児童養護施設送致	保護観察	なし	あり	なし
人員	14,863	1,978	1,109	40	829	12,885	8,816	6,047
(構成比)	(100.0)	(13.3)	(7.5)	(0.3)	(5.6)	(86.7)	(59.3)	(40.7)

(注) 30表 (07-00-30) 参照

(7) 新受刑者のうち暴力団加入者人員

最近10年間の新受刑者のうち、暴力団加入者人員の推移は、第18表のとおりである。平成19年は同18年に比べ478人減少した3,665人となっており、新受刑者に占める構成比も0.5%低下した12.0%となっている。

第18表 新受刑者のうち暴力団加入者人員の推移

区分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
総数	23,101	24,496	27,498	28,469	30,277	31,355	32,090	32,789	33,032	30,450
人員	3,296	3,376	3,747	3,633	3,628	4,309	4,244	4,612	4,143	3,665
(構成比)	(14.3)	(13.8)	(13.6)	(12.8)	(12.0)	(13.7)	(13.2)	(14.1)	(12.5)	(12.0)

(注) 46表 (07-00-46) 参照

3 再入受刑者

(1) 再入受刑者の再犯期間

最近10年間の再入受刑者（前刑出所前の犯罪により再入所した者を除く。）の再犯期間（前回の刑の執行を受けて出所した日から再入に係る罪を犯した日までの期間）別人員の推移は、第19表のとおりである。平成19年は1年未満が6,389人（41.5%）と最も多く、次いで、2年未満が3,244人（21.1%）、3年未満が1,802人（11.7%）の順となっている。

第19表 再入受刑者の再犯期間別人員の推移

区分	総数	再犯期間							
		1年未満 人員 (構成比)	うち、3月未満 人員 (構成比)	2年未満 人員 (構成比)	3年未満 人員 (構成比)	4年未満 人員 (構成比)	5年未満 人員 (構成比)	5年以上 人員 (構成比)	
平成10年	12,461	4,959 (39.8)	1,467 (11.8)	2,459 (19.7)	1,353 (10.9)	824 (6.6)	638 (5.1)	2,228 (17.9)	
11	13,183	5,329 (40.4)	1,623 (12.3)	2,509 (19.0)	1,445 (11.0)	853 (6.5)	695 (5.3)	2,352 (17.8)	
12	13,948	5,504 (39.5)	1,698 (12.2)	2,672 (19.2)	1,523 (10.9)	940 (6.7)	649 (4.7)	2,660 (19.1)	
13	13,990	5,522 (39.5)	1,740 (12.4)	2,659 (19.0)	1,543 (11.0)	880 (6.3)	660 (4.7)	2,726 (19.5)	
14	14,702	5,917 (40.2)	1,870 (12.7)	2,817 (19.2)	1,637 (11.1)	979 (6.7)	677 (4.6)	2,675 (18.2)	
15	14,847	5,912 (39.8)	1,860 (12.5)	3,021 (20.3)	1,637 (11.0)	968 (6.5)	685 (4.6)	2,624 (17.7)	
16	15,258	6,076 (39.8)	1,800 (11.8)	3,194 (20.9)	1,698 (11.1)	1,016 (6.7)	676 (4.4)	2,598 (17.0)	
17	15,997	6,425 (40.2)	2,062 (12.9)	3,306 (20.7)	1,881 (11.8)	1,111 (6.9)	749 (4.7)	2,525 (15.8)	
18	16,361	6,588 (40.3)	1,953 (11.9)	3,327 (20.3)	2,015 (12.3)	1,156 (7.1)	767 (4.7)	2,508 (15.3)	
19	15,402	6,389 (41.5)	1,982 (12.9)	3,244 (21.1)	1,802 (11.7)	1,049 (6.8)	740 (4.8)	2,178 (14.1)	

(注) 54表 (07-00-54) 参照

(2) 再入状況

平成14年の出所受刑者（27,308人）について、平成19年末までの再入状況は、第20表のとおりである。平成19年までの6年以内に再入所した者は、計12,594人（46.1%）となっている。また、満期釈放と仮釈放の別に6年以内再入者を比較すると、満期釈放は7,060人（58.9%）、仮釈放は5,534人（36.1%）となっている。

第20表 平成14年出所受刑者の平成19年末までの再入状況

出所事由	平成14年出所受刑者	再入年別人員及び構成比							計
		平成14年	15	16	17	18	19		
		人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	人員 (構成比)	
総数	27,308	1,574 (5.8)	4,303 (15.8)	2,973 (10.9)	1,869 (6.8)	1,184 (4.3)	691 (2.5)	12,594 (46.1)	
満期釈放	11,990	1,254 (10.5)	2,664 (22.2)	1,486 (12.4)	863 (7.2)	528 (4.4)	265 (2.2)	7,060 (58.9)	
仮釈放	15,318	320 (2.1)	1,639 (10.7)	1,487 (9.7)	1,006 (6.6)	656 (4.3)	426 (2.8)	5,534 (36.1)	

(注) 63表 (07-00-63) 及び64表 (07-00-64) 参照

(3) 出所後6年以内に再入所した者の推移

出所後6年以内に再入所した者の推移は、第21表のとおりである。再入率については3年連続して低下している。

第21表 出所後6年以内に再入所した者の推移

区分	出所年									
	平成5年	6	7	8	9	10	11	12	13	14
出所受刑者	22,036	21,750	21,371	21,369	21,989	22,240	23,125	23,715	25,714	27,308
(うち、再入人員)	(10,628)	(10,462)	(10,500)	(10,246)	(10,606)	(10,812)	(11,545)	(11,602)	(12,188)	(12,594)
再入率	48.2	48.1	49.1	47.9	48.2	48.6	49.9	48.9	47.4	46.1

(注) 63表 (07-00-63) 及び64表 (07-00-64) 参照

4 出所受刑者

(1) 出所受刑者の人員及び出所事由

最近10年間の出所受刑者の出所事由別人員の推移は、第22表のとおりである。平成19年における出所受刑者人員の総数は31,341人であり、同18年に比べ741人(2.4%)増加している。これを男女別に見ると、男が29,187人(93.1%)、女が2,154人(6.9%)となっている。さらに、出所事由別に見ると、満期釈放が15,465人(49.3%)、仮釈放が15,832人(50.5%)、国際受刑者移送法による送
出受刑者が44人(0.1%)となっている。

第22表 出所受刑者の出所事由別人員の推移

区 分	平成10年	11	12	13	14	15	16	17	18	19
人 員 総 数	22,240	23,125	23,715	25,714	27,308	28,170	29,533	30,037	30,600	31,341
男	21,173	21,972	22,472	24,327	25,830	26,594	27,782	28,207	28,598	29,187
女	1,067	1,153	1,243	1,387	1,478	1,576	1,751	1,830	2,002	2,154
指 数 総 数	100	104	107	116	123	127	133	135	138	141
男	100	104	106	115	122	126	131	133	135	138
女	100	108	116	130	139	148	164	172	188	202
出 所 事 由 別										
満 期 釈 放	9,292	9,870	10,459	11,291	11,990	12,386	12,836	13,605	14,503	15,465
(構 成 比)	(41.8)	(42.7)	(44.1)	(43.9)	(43.9)	(44.0)	(43.5)	(45.3)	(47.4)	(49.3)
仮 釈 放	12,948	13,255	13,256	14,423	15,318	15,784	16,690	16,420	16,081	15,832
(構 成 比)	(58.2)	(57.3)	(55.9)	(56.1)	(56.1)	(56.0)	(56.5)	(54.7)	(52.6)	(50.5)
送 出 移 送	7	12	16	44
(構 成 比)	(0.0)	(0.0)	(0.1)	(0.1)

(注) 67表(07-00-67)参照

(2) 出所受刑者のうち仮釈放者の刑の執行状況

a 有期懲役受刑者

平成19年における有期懲役受刑者のうち仮釈放者15,437人(仮釈放が取り消されて刑の執行を受け、さらに仮釈放を許された者を除く。)についての刑の執行率は、第23表のとおりである。刑の執行率80~89%が6,507人(42.2%)と最も多く、次いで、70~79%が4,270人(27.7%)となっている。

第23表 有期懲役受刑者のうち仮釈放者の刑の執行率

区 分	総 数	刑 の 執 行 率				
		59%以下	60~69%	70~79%	80~89%	90%以上
人 員 (構 成 比)	15,437 (100.0)	20 (0.1)	698 (4.5)	4,270 (27.7)	6,507 (42.2)	3,942 (25.5)
対 前 年 比	-1.4	-28.6	-32.6	-6.9	2.8	7.3

(注) 70表(07-00-70)参照

有期懲役受刑者の仮釈放者のうち、刑の執行率80%以上の者10,449人についての刑期別人員は、第24表のとおりである。総数では10,449人(67.7%)、刑期1年以下では991人(81.4%)、2年以下では3,698人(61.5%)、3年以下では3,125人(67.7%)となり、平成18年の総数10,001人(63.9%)と比べて全体的に執行率が上がっている。

第24表 有期懲役受刑者の仮釈放者のうち刑の執行率80%以上の刑期別人員

区 分	総 数	刑 期				
		1年以下	2年以下	3年以下	5年以下	5年を超える
有期懲役仮釈放者	15,437	1,218	6,015	4,619	2,838	747
うち、刑の執行率80%以上の人員	10,449	991	3,698	3,125	1,988	647
有期懲役仮釈放者に占める比率	67.7	81.4	61.5	67.7	70.0	86.6

(注) 70表(07-00-70)参照

b 無期懲役受刑者

平成19年における無期懲役受刑者のうち仮釈放者（無期刑の仮釈放が取り消され、服役後再び仮釈放となった者2人を除く。）1人について、その受刑在所期間は、第25表のとおりである。仮釈放者の受刑在所期間は382月（約31年10月）である。

第25表 無期懲役受刑者のうち仮釈放者の受刑在所期間

区 分	総 数	14年以下	15年以下	16年以下	17年以下	18年以下	19年以下	20年以下	20年を 超える
総 数	1	-	-	-	-	-	-	-	1
(構成比)	(100.0)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(100.0)

(注) 69表 (07-00-69) 参照

(3) 出所受刑者の刑務作業及び職業訓練など

平成19年における出所受刑者について、その在所時の刑務作業の業種別就業人員は、第26表のとおりである。業種別に見ると、経理作業（刑務所などの自主運営に必要な作業で、炊事、清掃及び看護などの作業）が5,846人（18.7%）と最も多く、次いで、織物製品製造が4,378人（14.0%）、紙・紙製品製造が3,310人（10.6%）、金属加工・機械組立修理が3,185人（10.2%）の順となっている。

第26表 出所受刑者の刑務作業の業種別就業人員

業 種	人 員	構成比	人員の対前年比
総 数	31,341	100.0	2.4
経 理 作 業	5,846	18.7	0.4
織 物 製 品 製 造	4,378	14.0	0.8
紙 ・ 紙 製 品 製 造	3,310	10.6	40.1
金 属 加 工 ・ 機 械 組 立 修 理	3,185	10.2	-9.9
紙 細 工	2,826	9.0	6.6
化 学 製 品 製 造	2,511	8.0	52.9
木 工	1,272	4.1	-2.7
ゴ ム ・ 可 塑 物 製 品 製 造	947	3.0	31.7
電 気 器 具 組 立 修 理	784	2.5	-16.4
金 属 材 料 製 造	655	2.1	37.0
そ の 他 の 技 能 工	607	1.9	-11.9
皮 革 ・ 皮 革 製 品 製 造	559	1.8	-5.1
印 刷 ・ 製 本	524	1.7	-13.5
単 純 労 働 作 業	141	0.4	-30.2
農 耕 ・ 牧 畜	121	0.4	-26.7
窯 業 ・ 土 石 製 品 製 造	114	0.4	2.7
建 設 作 業	104	0.3	0.0
サ ー ビ ス 工	104	0.3	-24.6
そ の 他	3,299	10.5	-20.5
不 就 業	54	0.2	12.5

(注) 71表 (07-00-71) 参照

平成19年における出所受刑者の職業訓練種目別人員は、第27表のとおりである。総数1,303人（出所受刑者総数の4.2%）のうち、修了者の受講種目の主な内訳を見ると、溶接が157人（12.0%）と最も多く、次いで、ソフトウェア管理が135人（10.4%）、建設機械運転が108人（8.3%）、ボイラー運転が77人（5.9%）、自動車整備が62人（4.8%）の順となっている。

第27表 出所受刑者の職業訓練種目別人員

業 種	人 員	構成比
総 数	1,303	100.0
溶 接	157	12.0
ソ フ ト ウ ェ ア 管 理	135	10.4
建 設 機 械 運 転	108	8.3
ボ イ ラ ー 運 転	77	5.9
自 動 車 整 備	62	4.8
電 気 工 事	50	3.8
介 護 サ ー ビ ス	45	3.5
理 容	45	3.5
左 官 ・ タ イ ル 施 工	43	3.3
木 工	35	2.7
ビ ル 管 理	32	2.5
木 造 建 築	26	2.0
コ ン ピ ュ ー タ 制 御	25	1.9
園 芸	18	1.4
畳	18	1.4
O A 事 務	18	1.4
そ の 他	378	29.0
未 修 了 者	31	2.4

(注) 72表 (07-00-72) 参照

平成19年における出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員は、第28表のとおりである。総数952人（出所受刑者総数の3.0%）の資格・免許の主な内訳を見ると、溶接技能者が130人（13.7%）と最も多く、次いで、ボイラー技士が92人（9.7%）、車両系建設機械運転技能者が91人（9.6%）、フォークリフト運転者が86人（9.0%）、危険物取扱者が81人（8.5%）、簿記検定が58人（6.1%）の順となっている。

第28表 出所受刑者が取得した資格・免許の種類別人員

種 類	人 員	構成比
総 数	952	100.0
溶 接 技 能 者	130	13.7
ボ イ ラ ー 技 士	92	9.7
車 両 系 建 設 機 械 運 転 技 能 者	91	9.6
フ ォ ー ク リ フ ト 運 転 者	86	9.0
危 険 物 取 扱 者	81	8.5
簿 記 検 定	58	6.1
情 報 処 理 技 術 者	56	5.9
自 動 車 整 備 士	38	4.0
珠 算 検 定	35	3.7
理 容 師	34	3.6
電 気 工 事 士	33	3.5
技 能 検 定 ・ 技 能 照 査	27	2.8
ワ ー プ ロ 検 定	20	2.1
玉 掛 技 能 者	16	1.7
ク リ ー ニ ン グ 師	14	1.5
パ ソ コ ン 検 定	13	1.4
そ の 他	128	13.4

(注) 73表 (07-00-73) 参照

(4) 出所受刑者の帰住先

平成19年における出所受刑者（満期釈放者及び仮釈放者）の出所事由別の帰住先は、第29表のとおりである。総数で見ると、親族のもとが16,030人（51.2%）と最も多く、次いで、更生保護施設が4,087人（13.1%）、知人のもとが2,334人（7.5%）の順となっている。出所事由別で見ると、満期釈放では、親族のもとが5,986人（38.7%）と最も多く、次いで、知人のもとが1,370人（8.9%）、更生保護施設が584人（3.8%）となっている。仮釈放では、親族のもとが10,044人（63.4%）、次いで、更生保護施設が3,503人（22.1%）、知人のもとが964人（6.1%）の順となっている。

第29表 出所受刑者の出所事由別の帰住先

帰住先	総数		満期釈放		仮釈放	
	人員	(構成比)	人員	(構成比)	人員	(構成比)
総数	31,297	100.0	15,465	100.0	15,832	100.0
親族のもと	16,030	51.2	5,986	38.7	10,044	63.4
父, 母のもと	9,643	30.8	3,288	21.3	6,355	40.1
配偶者のもと	3,298	10.5	1,251	8.1	2,047	12.9
兄弟, 姉妹のもと	1,848	5.9	888	5.7	960	6.1
その他の親族のもと	1,241	4.0	559	3.6	682	4.3
知人のもと	2,334	7.5	1,370	8.9	964	6.1
雇い主のもと	356	1.1	169	1.1	187	1.2
社会福祉施設	42	0.1	36	0.2	6	0.0
更生保護施設	4,087	13.1	584	3.8	3,503	22.1
その他	8,448	27.0	7,320	47.3	1,128	7.1

(注) 83表 (07-00-83) 参照

(5) 出所受刑者の懲罰回数

平成19年における出所受刑者の初入・再入別懲罰回数は、第30表のとおりである。在所時に懲罰を受けた者は15,453人（出所受刑者総数の49.3%）となっている。初入・再入別で見ると、初入で懲罰を受けた者は6,718人（出所受刑者のうち初入者総数の44.6%）であり、再入で懲罰を受けた者は8,735人（出所受刑者のうち再入者総数の53.6%）となっている。

第30表 出所受刑者の初入・再入別懲罰回数

区分	総数	1回	2回	3回	4回	5回	6回以上	なし
総数 (構成比)	31,341 (100)	6,197 (19.8)	2,844 (9.1)	1,735 (5.5)	1,169 (3.7)	781 (2.5)	2,727 (8.7)	15,888 (50.7)
初入 (構成比)	15,055 (100)	3,012 (20.0)	1,253 (8.3)	685 (4.5)	459 (3.0)	294 (2.0)	1,015 (6.7)	8,337 (55.4)
再入 (構成比)	16,286 (100)	3,185 (19.6)	1,591 (9.8)	1,050 (6.4)	710 (4.4)	487 (3.0)	1,712 (10.5)	7,551 (46.4)

(注) 78表 (07-00-78) 参照

5 休養患者 — 被収容者のり病状況

平成19年における休養患者（医師の診断を受けた者のうち、医療上の必要により病室又はこれに代わる室に収容されて治療を受けた者）の人員は、既決拘禁者（受刑者、死刑確定者及び労役場留置者）が21,302人（男20,559人、女743人）、未決拘禁者（被告人、被疑者など）が1,010人（男938人、女72人）である。

このうち、既決拘禁者についての主要病名別転帰事由別人員は、第31表のとおりである。病名別で見ると、呼吸器系の疾患が7,207人（33.8%）と最も多く、次いで、筋骨格系・結合組織の疾患が3,357人（15.8%）、消化器系の疾患が3,068人（14.4%）の順となっている。また、総数を転帰事由別に見ると、治癒又は軽快が19,301人（90.6%）、後遺が699人（3.3%）、未治出所が511人（2.4%）の順となっている。

なお、休養患者の平均り病日数は、既決拘禁者が33日、未決拘禁者が42日となっている。

第31表 休養患者の主要病名別転帰事由別人員（既決拘禁者）

病名	総数	構成比	総数	転 帰 事 由				
				治癒又は軽快	死亡	未治出所	後遺	その他
総数	21,302	100.0	21,302	19,301	300	511	699	491
			(100.0)	(90.6)	(1.4)	(2.4)	(3.3)	(2.3)
感染症・寄生虫症	986	4.6	986	866	4	21	42	53
			(100.0)	(87.8)	(0.4)	(2.1)	(4.3)	(5.4)
新生物	720	3.4	720	315	111	80	80	134
			(100.0)	(43.8)	(15.4)	(11.1)	(11.1)	(18.6)
内分泌、栄養・代謝疾患	305	1.4	305	250	5	17	16	17
			(100.0)	(82.0)	(1.6)	(5.6)	(5.2)	(5.6)
精神・行動の障害	1,034	4.9	1,034	700	7	95	181	51
			(100.0)	(67.7)	(0.7)	(9.2)	(17.5)	(4.9)
神経系の疾患	362	1.7	362	308	4	20	20	10
			(100.0)	(85.1)	(1.1)	(5.5)	(5.5)	(2.8)
循環器系の疾患	1,094	5.1	1,094	831	57	66	89	51
			(100.0)	(76.0)	(5.2)	(6.0)	(8.1)	(4.7)
呼吸器系の疾患	7,207	33.8	7,207	7,105	28	23	27	24
			(100.0)	(98.6)	(0.4)	(0.3)	(0.4)	(0.3)
消化器系の疾患	3,068	14.4	3,068	2,827	33	57	66	85
			(100.0)	(92.1)	(1.1)	(1.9)	(2.2)	(2.8)
皮膚・皮下組織の疾患	777	3.6	777	739	1	9	19	9
			(100.0)	(95.1)	(0.1)	(1.2)	(2.4)	(1.2)
筋骨格系・結合組織の疾患	3,357	15.8	3,357	3,220	2	49	76	10
			(100.0)	(95.9)	(0.1)	(1.5)	(2.3)	(0.3)
腎尿路生殖器系の疾患	349	1.6	349	260	11	32	31	15
			(100.0)	(74.5)	(3.2)	(9.2)	(8.9)	(4.3)
損傷・中毒	450	2.1	450	413	14	7	7	9
			(100.0)	(91.8)	(3.1)	(1.6)	(1.6)	(2.0)
その他	1,593	7.5	1,593	1,467	23	35	45	23
			(100.0)	(92.1)	(1.4)	(2.2)	(2.8)	(1.4)

- (注) 1 既決拘禁者について調査したものである。
2 「未治出所」とは、治癒に至らないうちに満期、仮釈放又は刑の執行停止により出所した者をいう。
3 「後遺」とは、12月31日現在において未治癒の者をいう。
4 「その他」とは、他の行刑施設に移送になった者等をいう。
5 ()内の数字は、各病名に対する転帰事由別構成比である。
6 87表(07-00-87)参照